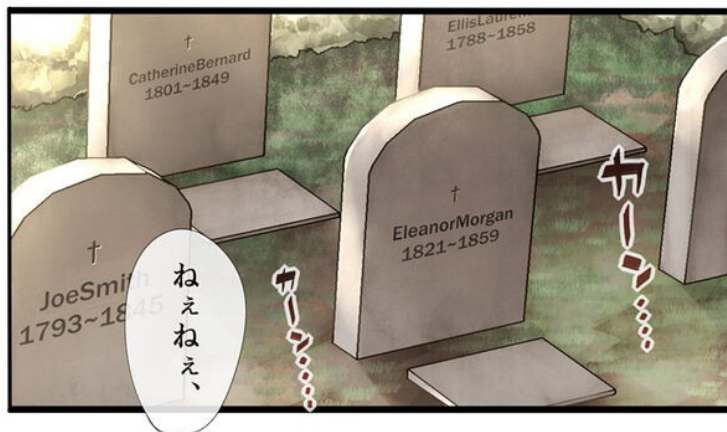


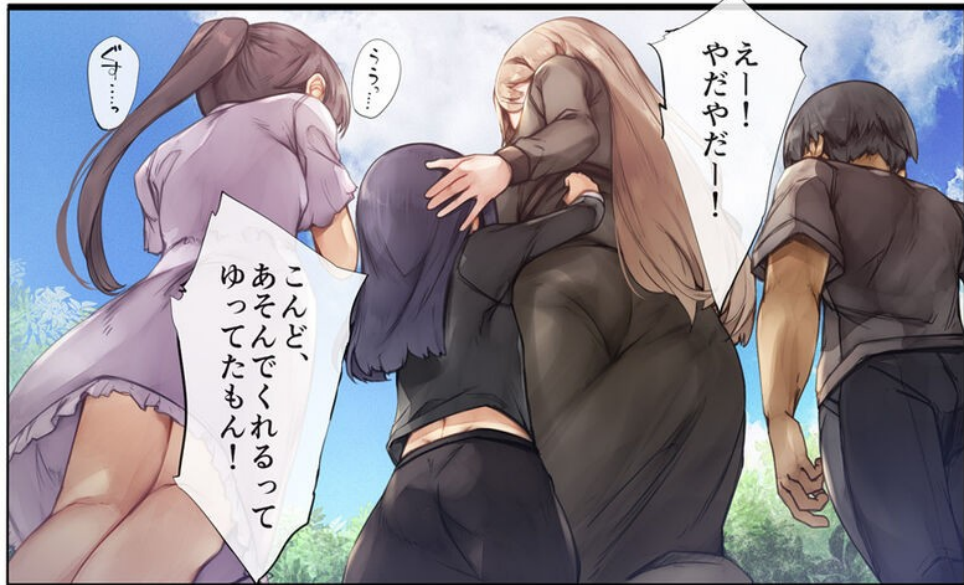
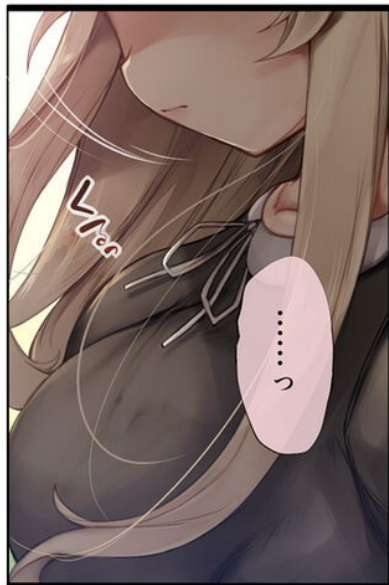
フルカラー-87P

町外れの聖女様

大好きなおねえちゃんは
僕の知らない男のモノ

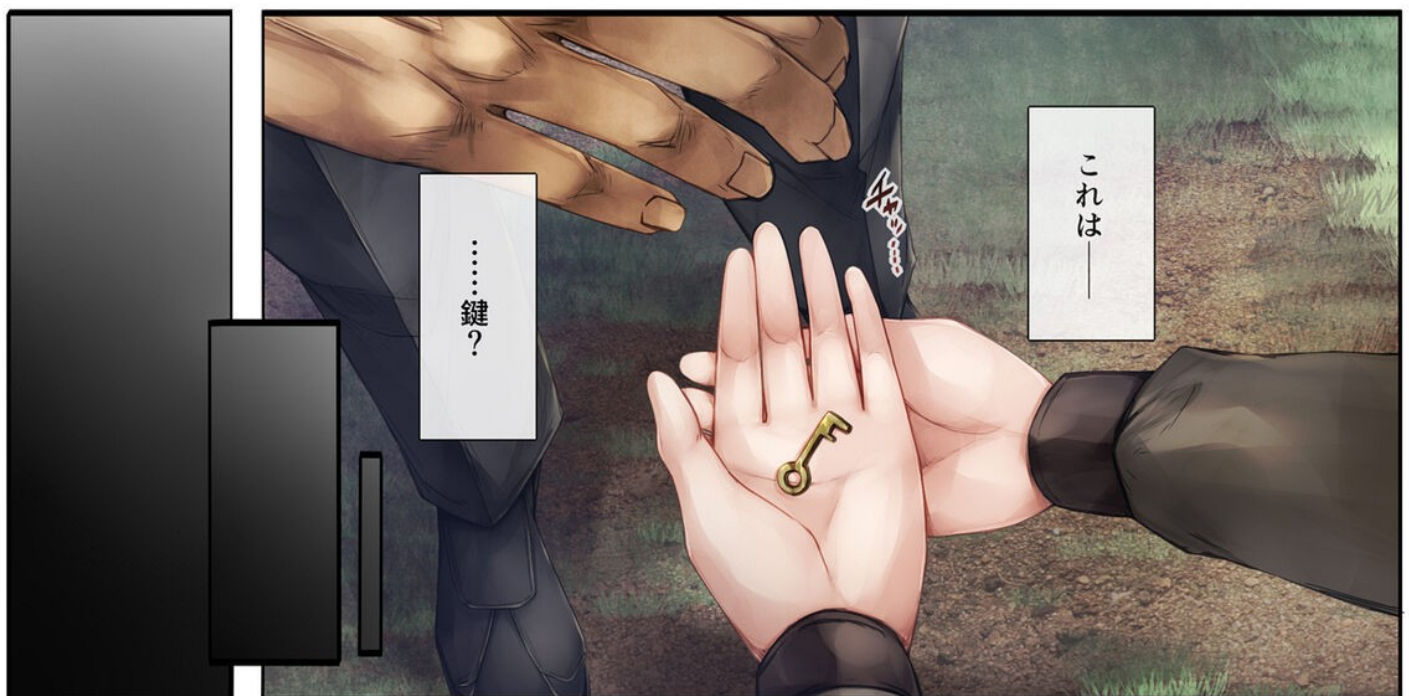
制作：しろくろうき/スギユウ



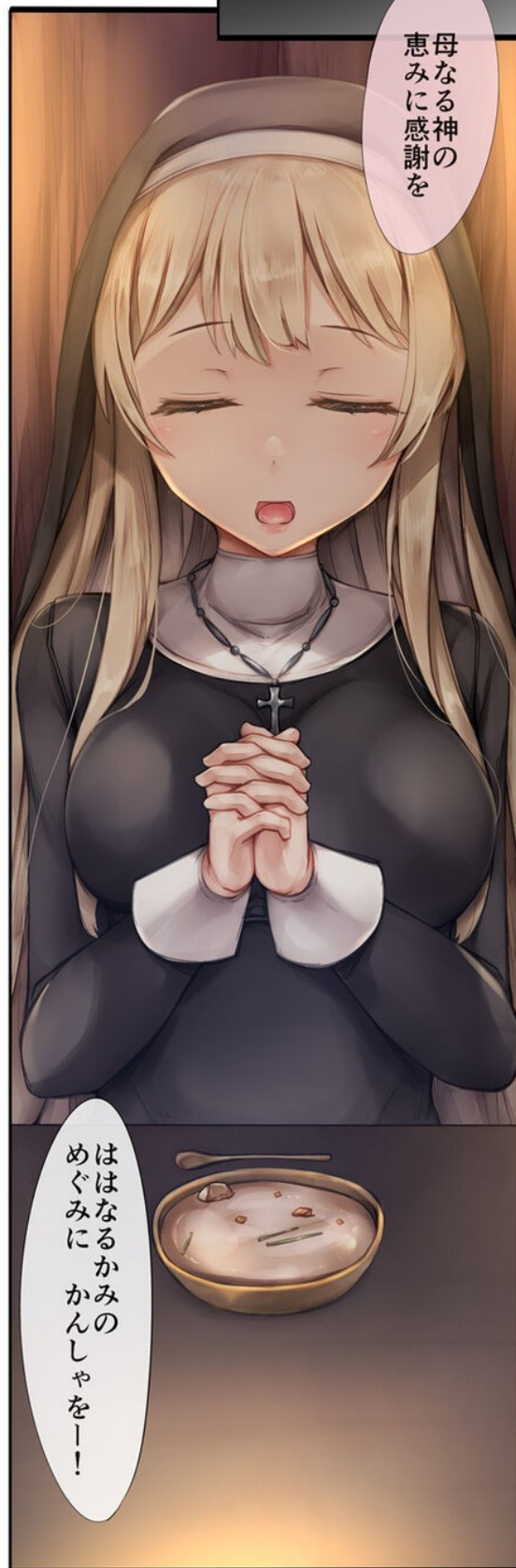


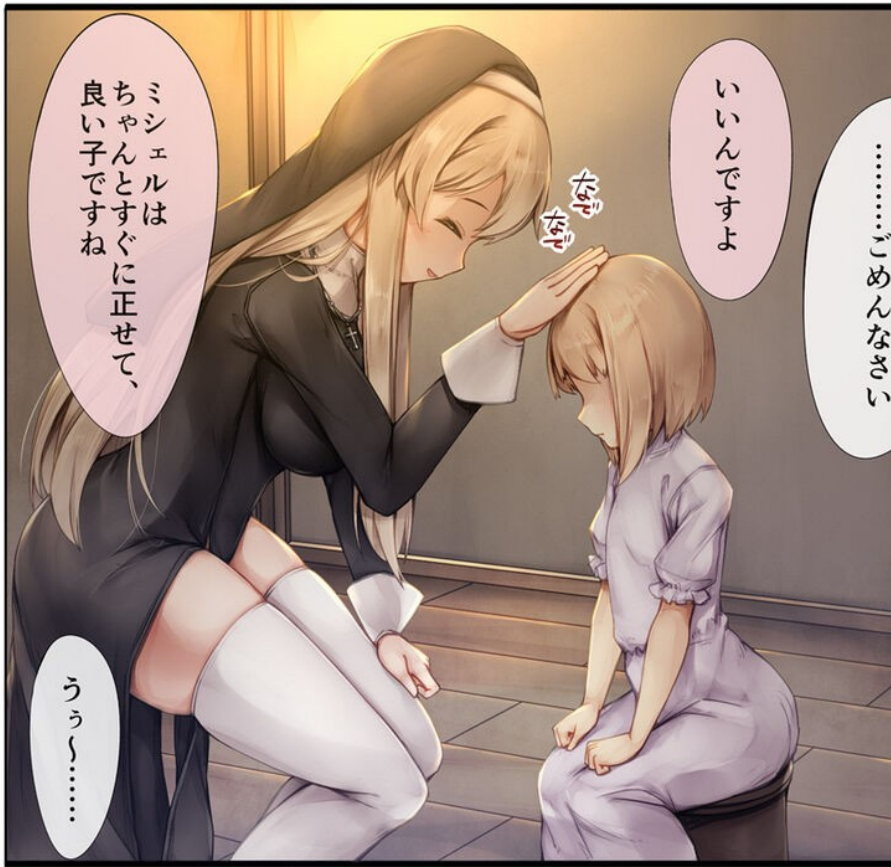
私がこの子たちを
守っていきます

どうかお見守り下さい
シスター・エレノア



1 年後——







僕の憧れのおねえちゃん
シスター・カペラ

もとは同じ孤児だったのに、
シスター・エレノアの死後
ここの運営を引き継いでくれた

シスター・カペラ
仕事、頑張ってるね

シスター・カペラ
頑張ってるね

フッ

おねえちゃんがいないかったら、
僕ら家族はこうして一緒の場所に
居られなかったかもしれない

優しくして、大好きな、
僕のおねえちゃん

早く大人になって
それで、おねえちゃんと――

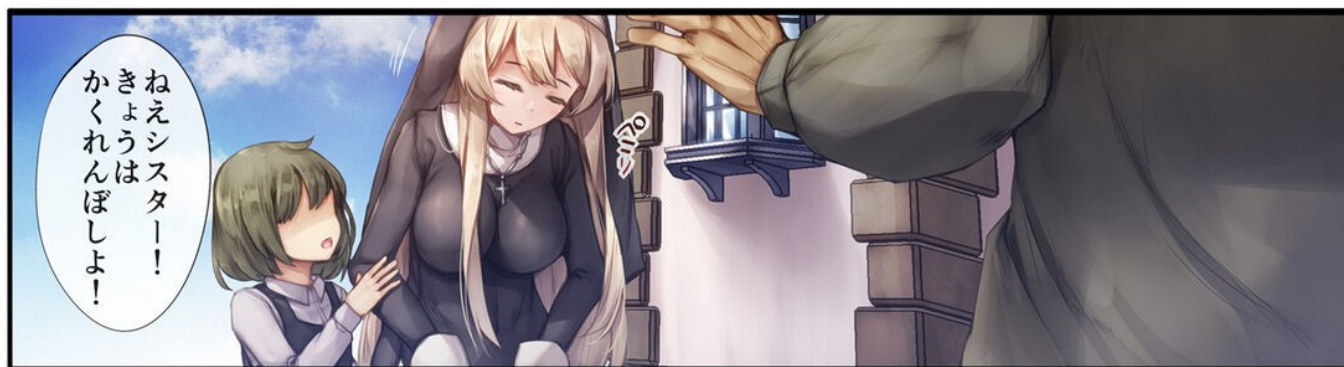


……

最近
おねえちゃんの
表情が暗い

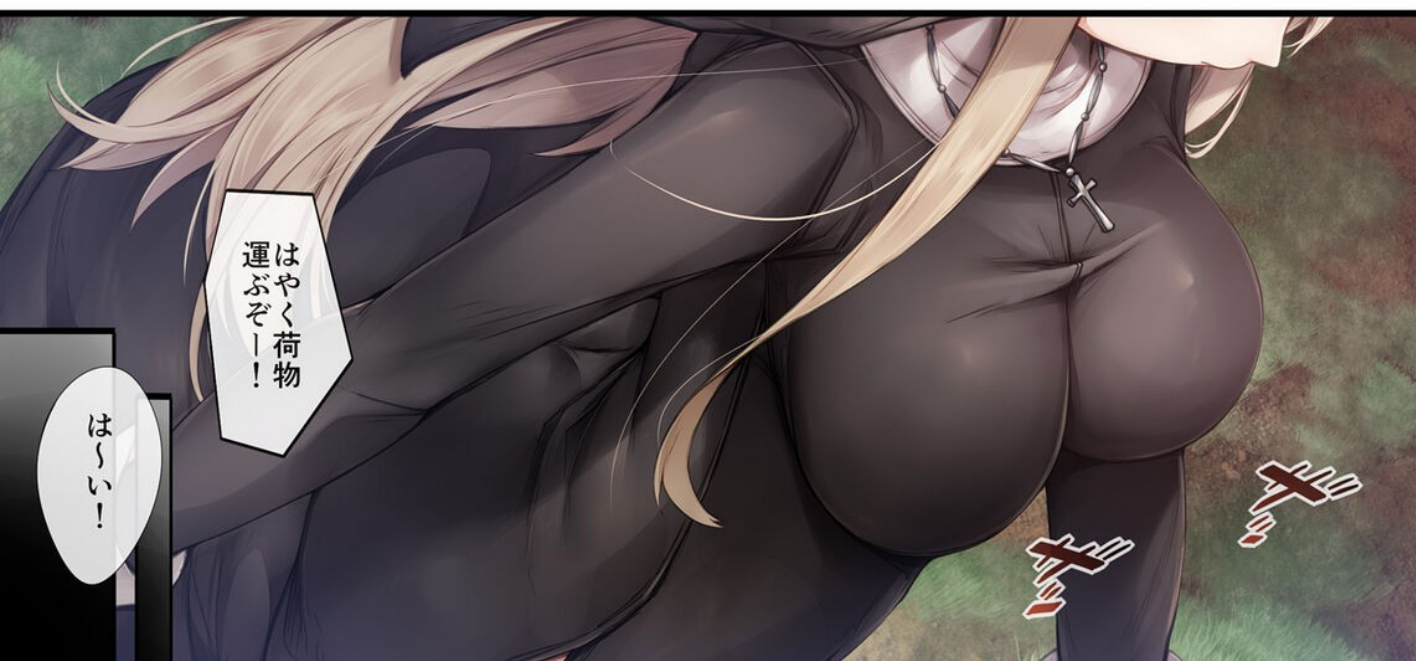
きっと何か
あるんだ

僕が力になれば
良いんだけどな……











そうさ、立派なお仕事だよ

なあ、カペラ？

ふ…うつ…！

いっ…いっ…

…約束、どうか忘れないでくださいませ…

もちろん。

この孤児院への支援は存分に果たすさ

ふ…

……

ふ…



あ……っ

は

あ

言わないで……
くださいませ……っ



それにしても、表向き清純なシスター様が裏でこんなことやってるなんて子供たちが知ったらどう思うかねエ

!!

だ、だめですっ！
どうか…どうか
あの子たちには……

このあととは
晩飯作って
お祈りか？

いっ…いっ…

男に抱かれた直後に
よく子供たちと
接することができるな

いっ…いっ…
いっ…いっ…
いっ…いっ…



発情した身体から
漂うメスの香りに
子供たちは気付いてるぞ

いや…あつ！

クククツ……

今日もいっぱい
俺の種を刻み込んで
あげるからね

ドゥ
ドゥ
ドゥ

ドゥ
ドゥ
ドゥ

グ
グ
グ

出てる……
熱いのが
私の中で……

ふ……………

ッ！！



あ……はあつ
……っあ

へばってないで
言うことがあるだろ？

グ
グ
グ

はー

はい……

ご主人様……
今日もお恵みいただき
ありがとうございます……

はー

グ
グ
グ





ククッ……
よし、いいぞ



ああっ！

どんな辱めを
受けても……

私はあの子たちの
生活のために……



これも孤児院のため……

……わ、わたしの、
おまんこ……に、
……ご主人様の、
おちんちん……を、
ください……

一帯を治める領主様のご子息で
私の身体と引き換えに
運営資金を融通する約束をした

「畑仕事や給仕で養う」
などと言いだした時のお前は
本当にお笑い草だったぞ！

……ッ！
いい、今でも……できるなら
……こんなこと……

おお、そんな言われ方を
すると悲しいねエ

アッ………！
いえ……その……っ

申し訳
ございません……

どうか……
お許しを……っ

俺のモノに
なったんだからな

はあんっ！

いいさ。
結局お前は
俺に頼ってきた

う……あつ

やあ……
ひ……あつ！





その穢れた身体で
神様とやらに祈るのは
どんな気分なんだ？
なあ、聖女様？

神も呆れて
おられるぞ

はあ

どれだけ
なじられようと――

アハハ

いやっ！
言わないでっ…：そのような事
言わないでくださいまし…：



これはあの子たちの…
あの子たちの…
ためなのです…：

ふー

ふー

グッ

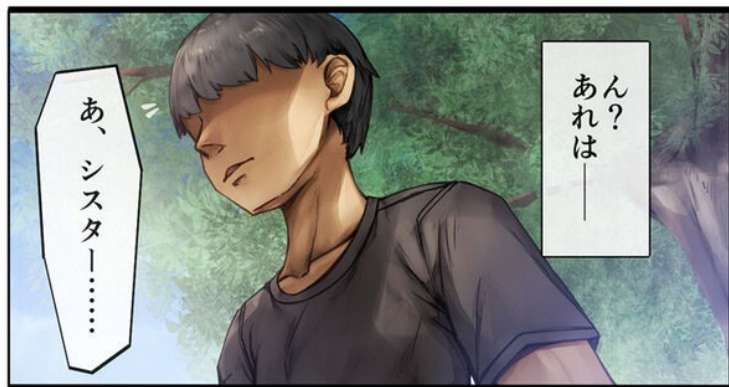
ふー

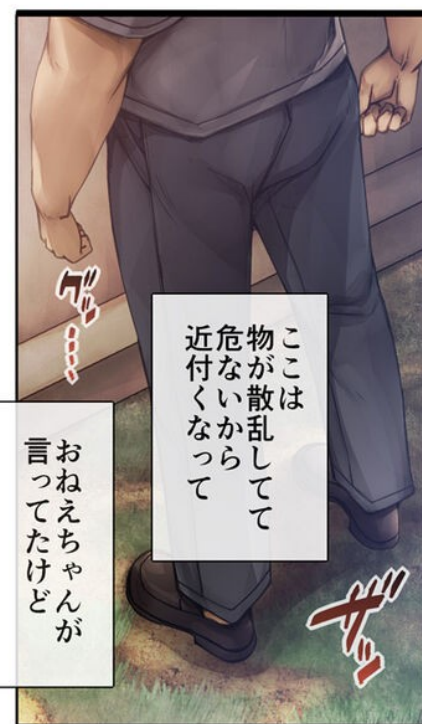
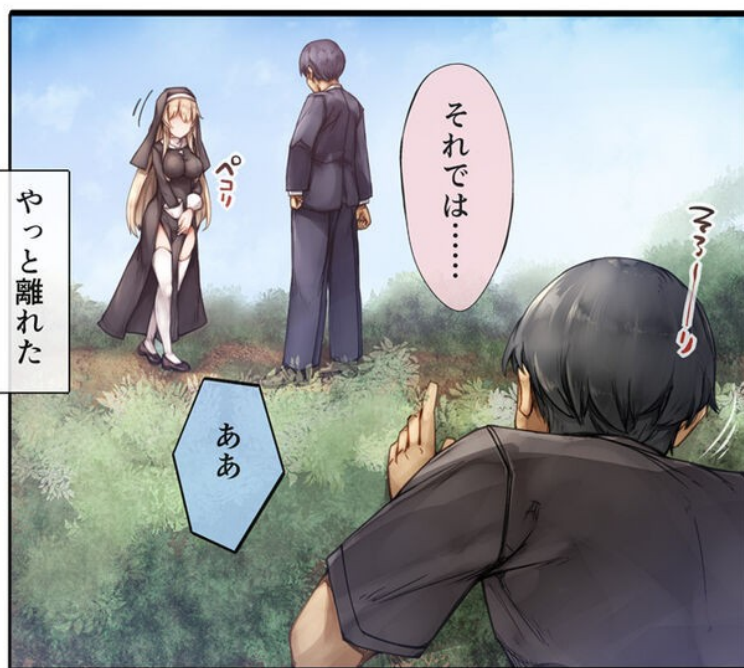
だからどうか神よ…
卑しい私を
お許しください…：

ふー

ふー

ふー







後日、また小屋を
こっそり見に行ったら
床の液体は
綺麗に掃除されてた

思い返してみれば
おねえちゃんは
あの貴族っぽい男が
来たとき

少しの間姿を
消すことがあった

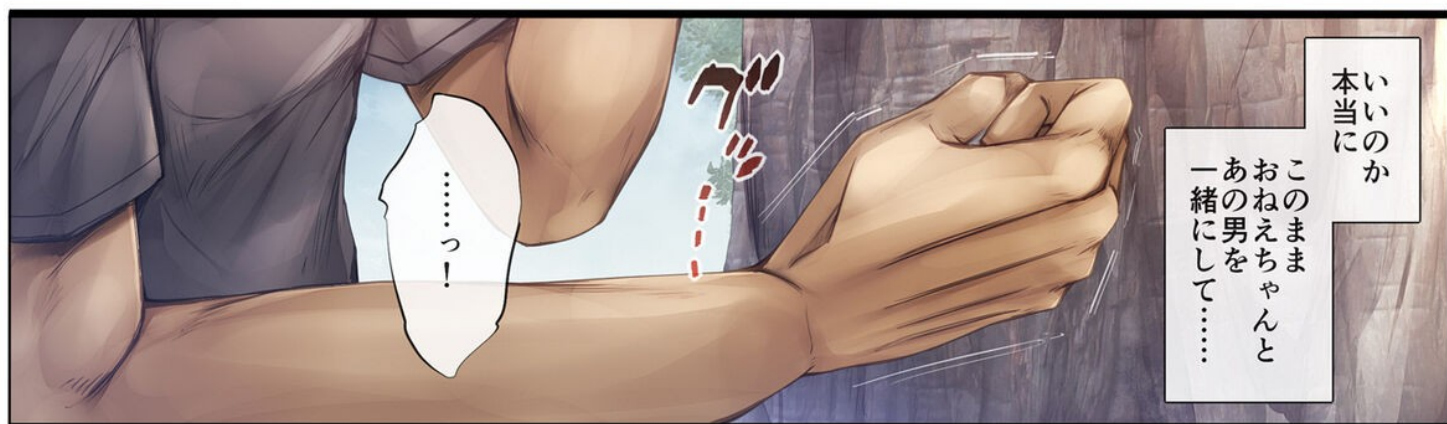
さっきあの男を
見かけたから
急いでここに
来ちゃったけど

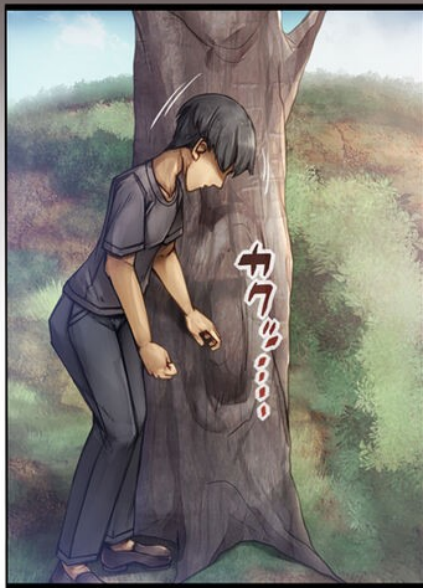
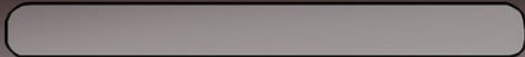
どうしよう
もしおねえちゃんが
あの男とここに来たら――

……どうか
思い過ごし
あつてほしい

どうか……

……うッ！











俺はいつでも
支援を止めたって
いいんだぞ？

！
そ、それだけはっ…！
どうかご勘弁を…

冗談だよ冗談。
半分はな…フフ

まあ

子供が路頭に迷うところ
なんて見たくないよなあ

はい…
はい…
っ

はー

ふっ

……
っ



こんな……
ここ数か月の間に
来るようになった
男なんかに……

ず……

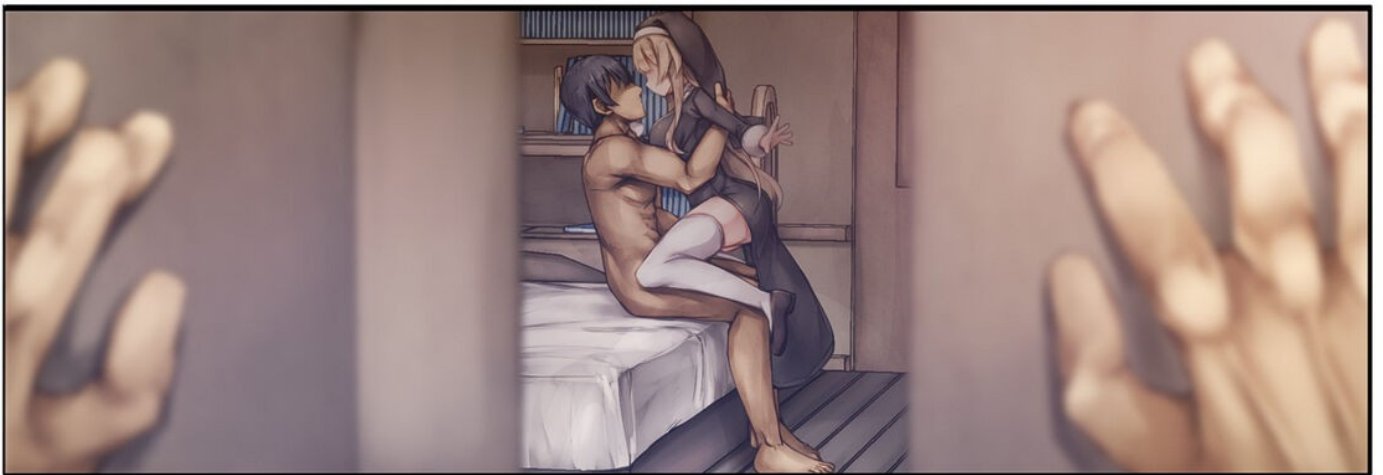
ガッ



おねえ……ちゃ……

うそだ！
そんなっ……！

大好きなおねえちゃん……
僕の……僕のおねえちゃんが……



おねえちゃんのことを……
僕は何年も……ッ

う……

何年も見続けて
きたんだぞ！

ギ……

なかなか良い
腰使いじゃないか

はいっ…

ありがとうございます……
ございます……っ

これ、だめ……っ♥

気持ちいいところ
当たって……
腰が…勝手に……っ♥

絶対に
気付かれちゃ
ダメ……

こんな……男の人に跨って
気持ち良くなっちゃってるなんて……♥

ぎゅん♥

ぎゅん
ぎゅん
ぎゅん





次は無いからな



…っあ……
も、申し訳ございません……
ご主人様……ううっ……

主人そっちのけで、
勝手にイクなんて、
舐めがまだ足りない
みたいだな

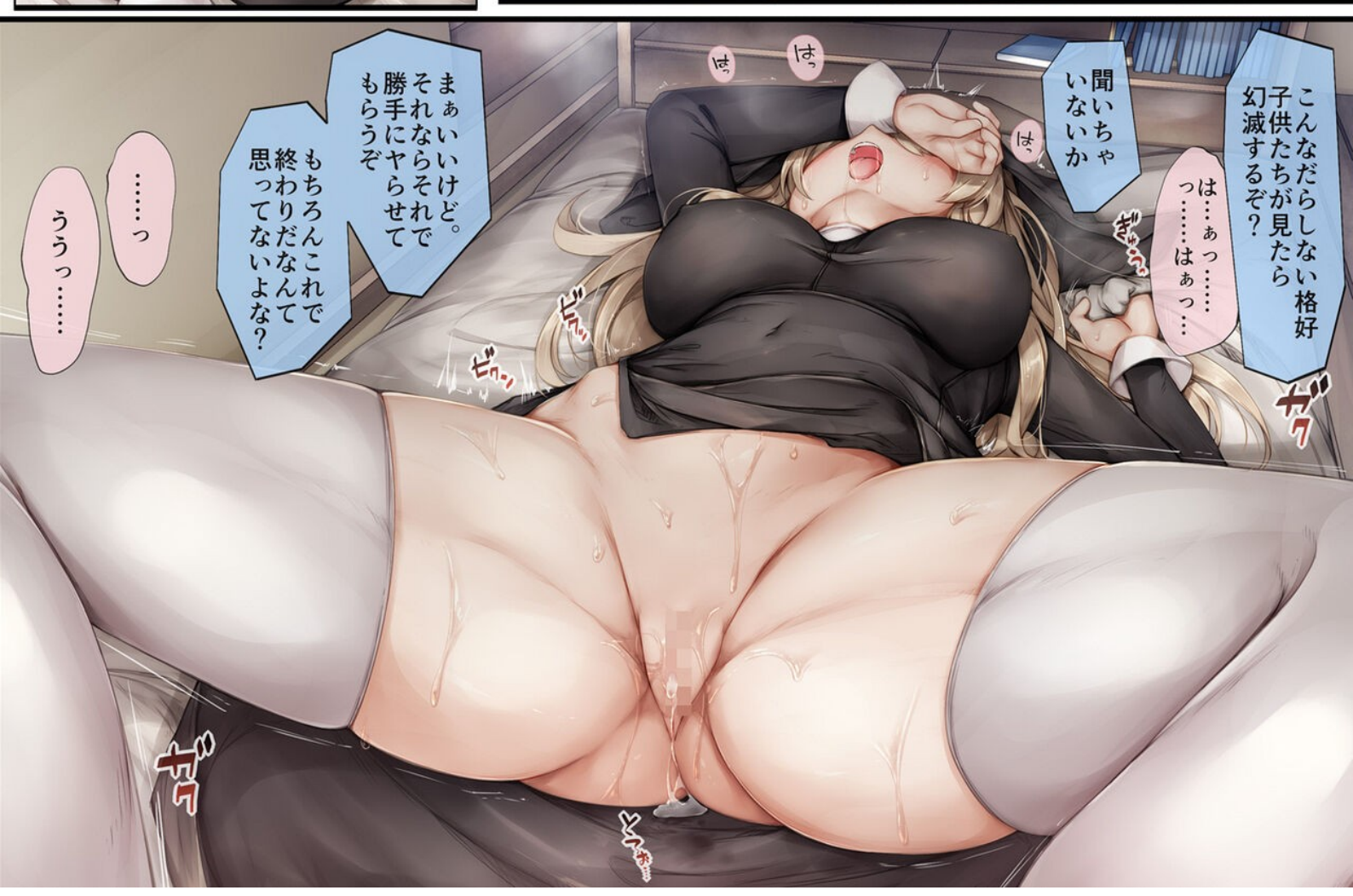


っあっ……

はいっ……



おっぱい、おっぱい!!





はああっんっ!

ブッ
グッ

ふウ...っ!
まだいい反応が
できるじゃないか

は

ま

グッ

グッ



やっ...
だめ...ですっ

何がダメだって?

舌が入ってくる...

ん

ぶ

んぐっ...ふうっ
...んーっ

お酒のにおい...

んちゅっ...
れろ...

ん

ん

やだ...
気持ちい...っ

キス...
頭とろけ
ちやいそう...

ブッ
グッ
グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

はあっ…

はあ…っ

今日もご苦労

ご褒美に少しでも
上乗せしておくよ

…っ

…っ

っあ…

ありがとうございます…
ございま…すっ…

ところで相談なんだが

………！

まだこんなに
大きいなんて…

ガニシ

ギン

ギン

トン…

………

………はい

ご主人様の…
お望みの…ままに…

なんで……
なんでだよっ…

もうやめて
くれ…っ

僕の方が
ずっと先に

おねえちゃんのこと
好きだったんだぞッ

ずっと一緒にいたのは
僕の方なのに……ッ

僕のおねえちゃんを
とらないでよっ……

それにしても
今日はいつもより
良い声で鳴くじゃないか

そ、そんなこと……
ありません……

は……♡

は……♡
は……♡

声出さないように……
しなきゃ……

でも……だめ……
声、出ちゃうっ……♡

あっ……く……ふうっ……♡

これはお勤めなのに……♡
気持ち良くなっちゃ……♡

きゅん♡

ずず

ずず

たん

たん

たん

ぐん

クッ

グッ

たん

たん

たん

たん



男に抱かれた
そのカラダで
子供たちと接する
背徳感は
さぞかし
甘美だろうなあ

いあっ...
言わないで...

言わないで
くださいませ...っ



ほら、お望みの物を
くれてやる!

...っあ

あ...っ
あ...っ
あ...っ

あ...っ







……え？

まさか……そうか、
そうか……ハハハッ

ギン

な、なにを笑って……
だって私はこの孤児院で
シスター・エレノアの
高貴な遺志を継いで……



その様子じゃ
本当に知らん
みたいだな

バ

使い道の
分らない鍵
持ってるだろ？

鍵……？

どうして
それを？！



で、やってる
ことはコレか？

……ッ！

ゴ

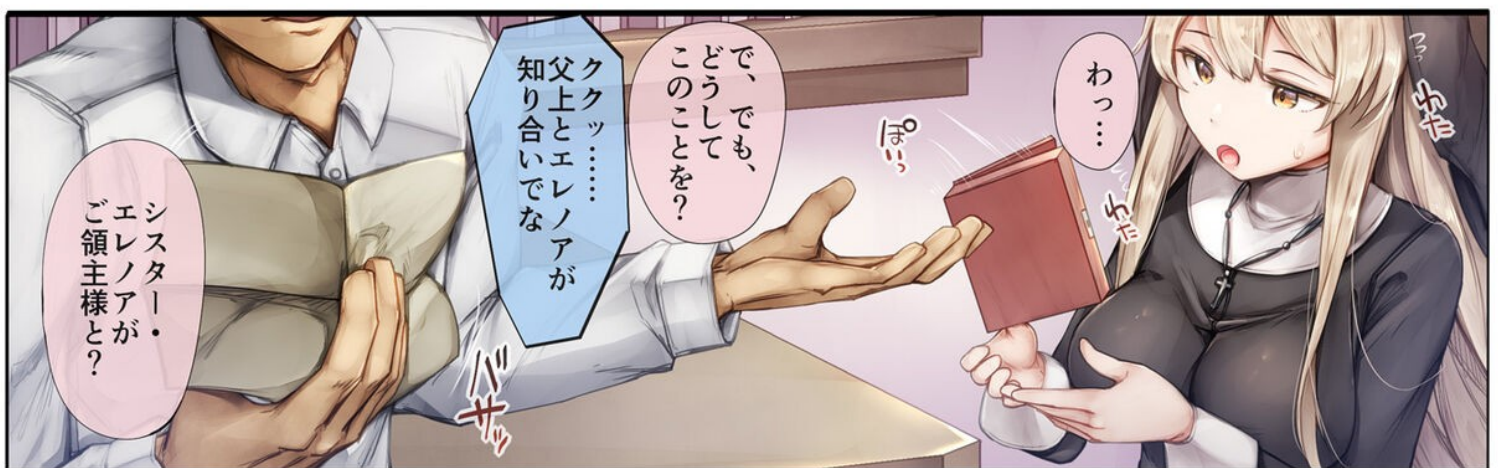
んぎゃ……

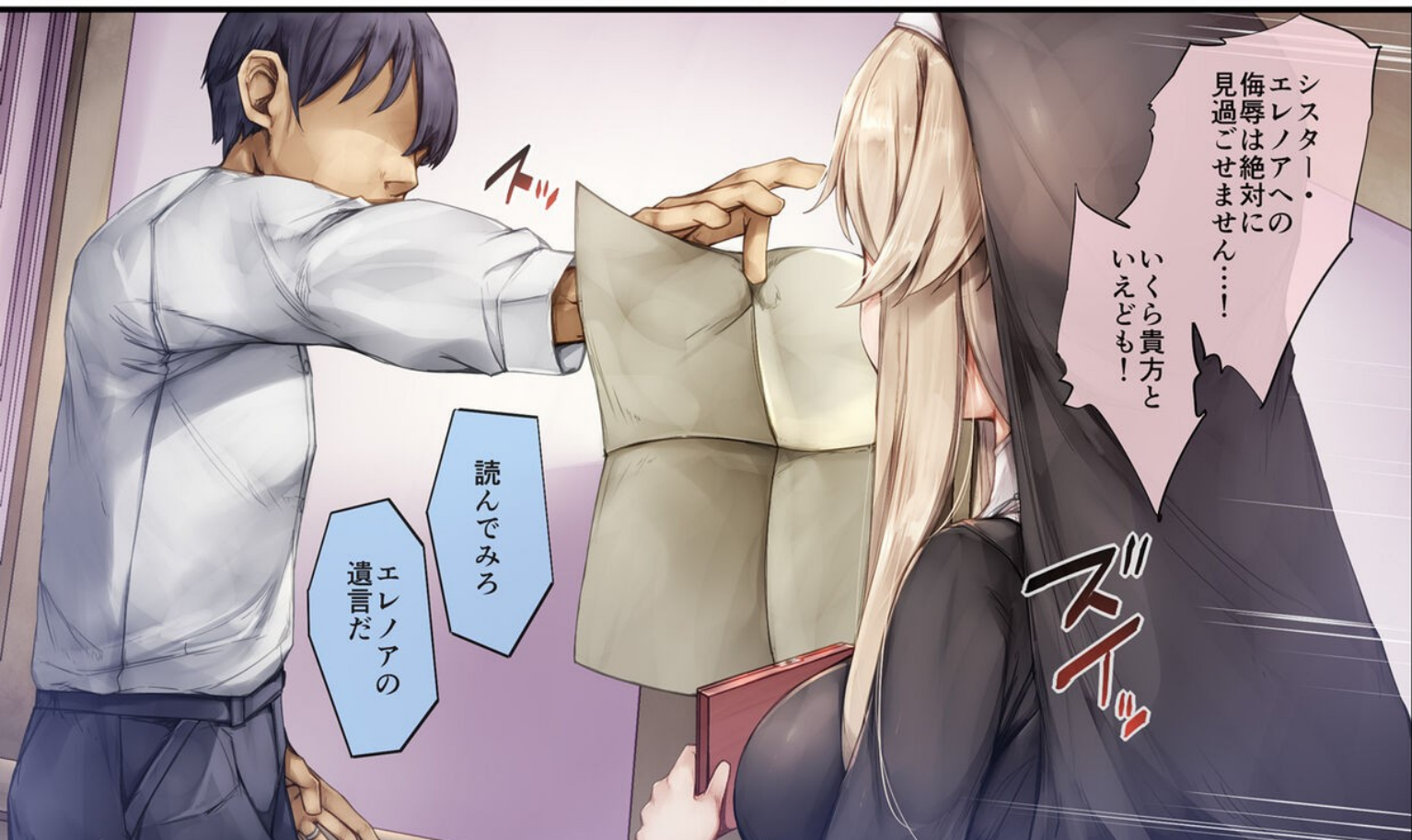


エレノアの
部屋に行くぞ

ギン

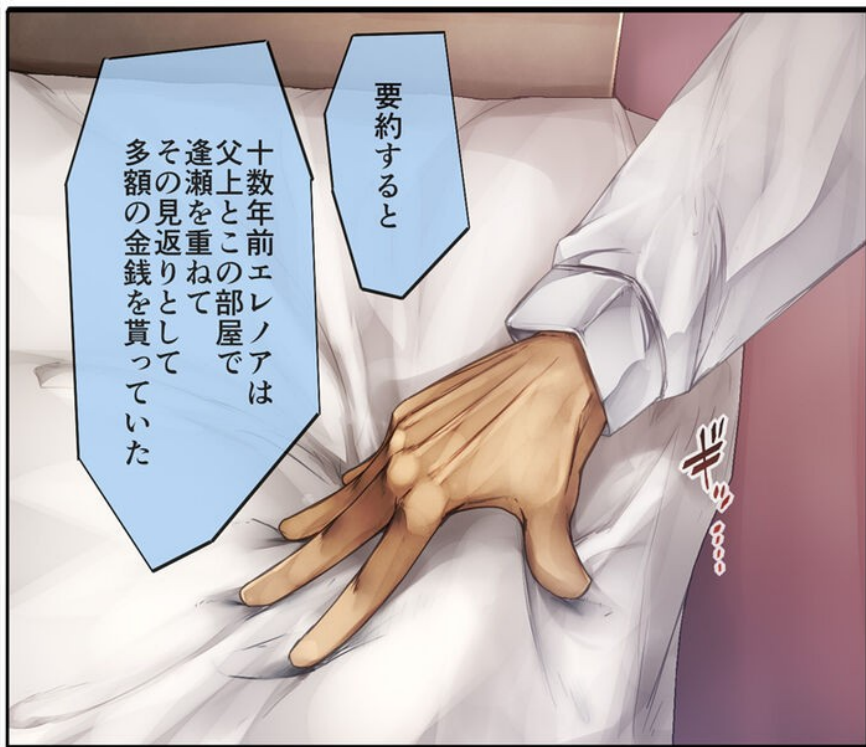
バ





『親愛なるカペラ』

『最後まで
言えずにいた
弱い私を
許してください』







なあ、
知ってるか？

町でお前が
どう呼ばれて
いるのか



町外れの聖女様、だ



森に打ち捨てられた
小屋から始めたのが
ここ、娼館って話だ

そんなやつらが
何十年も前に
寄り集まって



こんな僻地
まともな商売が
成り立つわけがない

外された、つまり
罪を犯して追い出された
ってことだ



町外れにはが
あつてな

一つはそのままの意味、
そしてもう一つは
“町から外された人々”
って意味だ



そして、その流れで
お前のことも
察しはついてる
だろうな



町の年寄り連中は
知ってるのさ



この土地の
過去も
エレノアの
ことも



だから、侮蔑の意味を込めて
“町外れの聖女様” って
呼んでんだよ

体を売って

日銭を
稼いでる

卑しい
聖女様

ってな

ひっ……



そうじゃない
としても……

たとえば…荷物を
持ってきてくれる
あの人だって……

いつかは……

まあ出来は
イマイチかも
しれませんが
はまは……



知られて……？



一部の奴から見れば
娼館育ちの
立派な娼婦なんだよ

自覚できたか？

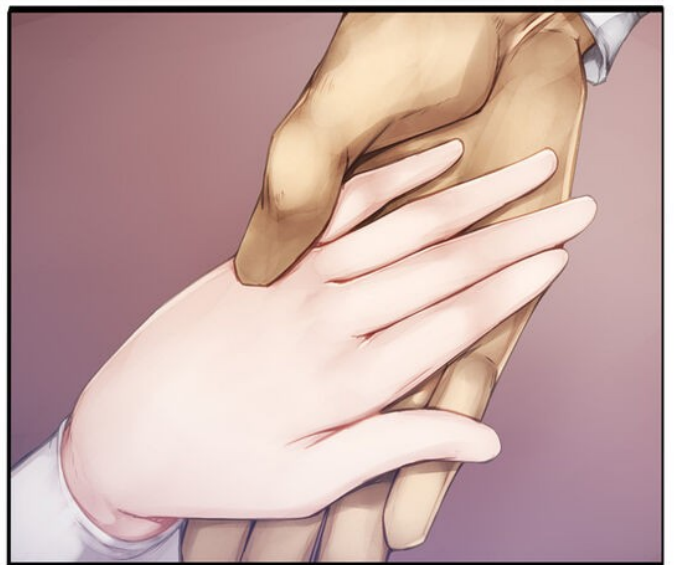
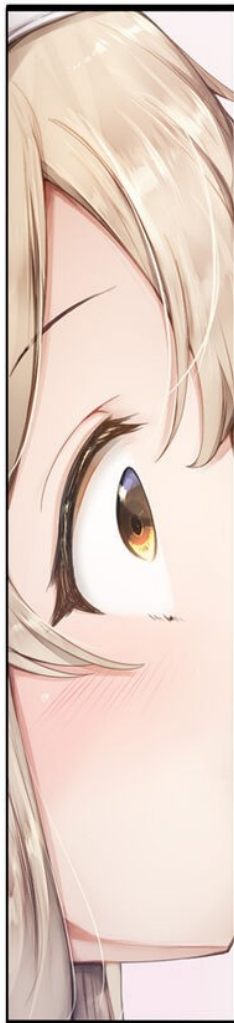
……ッ



わ、私は……
ただあの子たちの
ためと思って……

志はご立派さ

何かを犠牲にしても
守りたいものを守る、
そういう姿勢には
好感が持てる



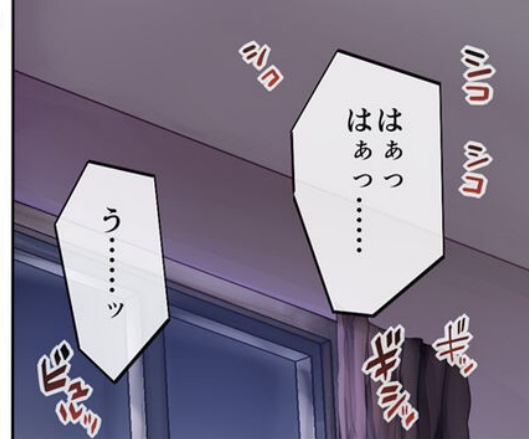


くそくそっ！

なんでっ！

おねえちゃんが
無理やりあんな事
されてるのに

僕は何を
やってんだ……！



はあっ
はあっ
……

う……ッ



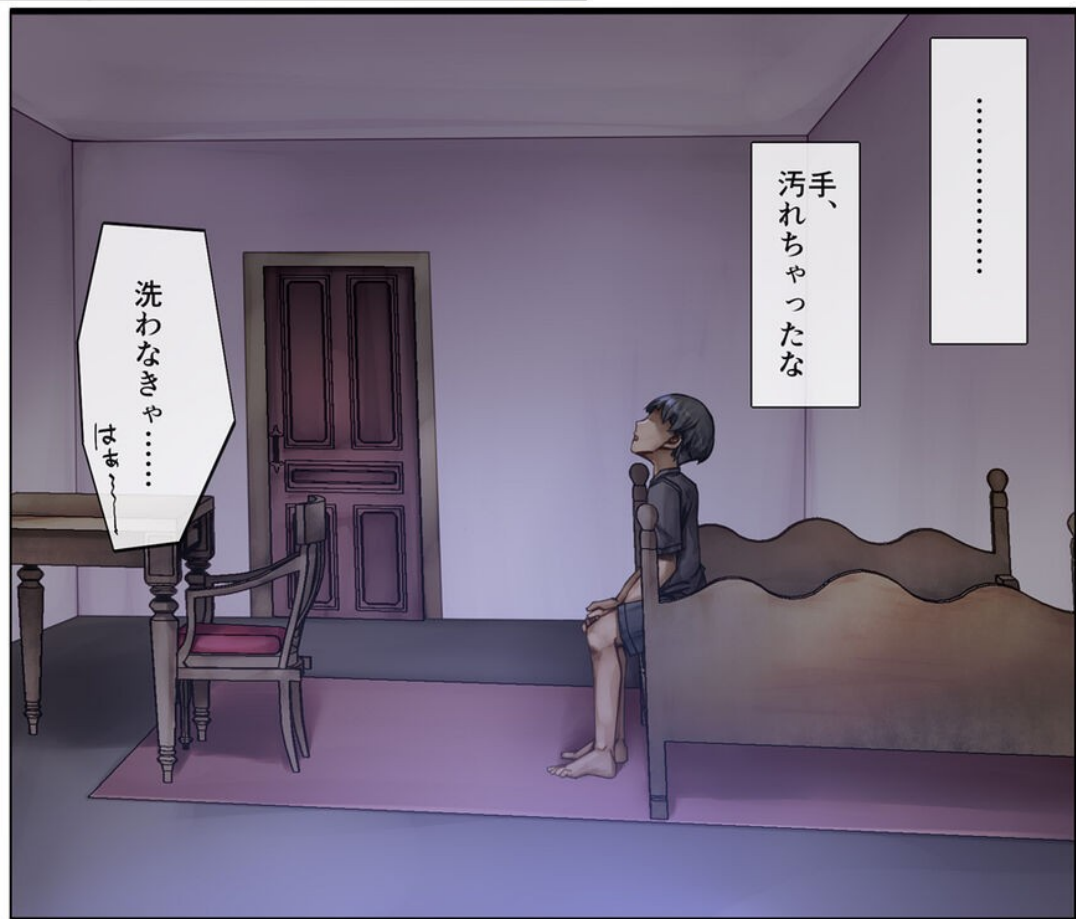
はあっ

はあ

だめだ、おねえちゃんの
あの姿を見てから
興奮が収まらない……



キィッ……



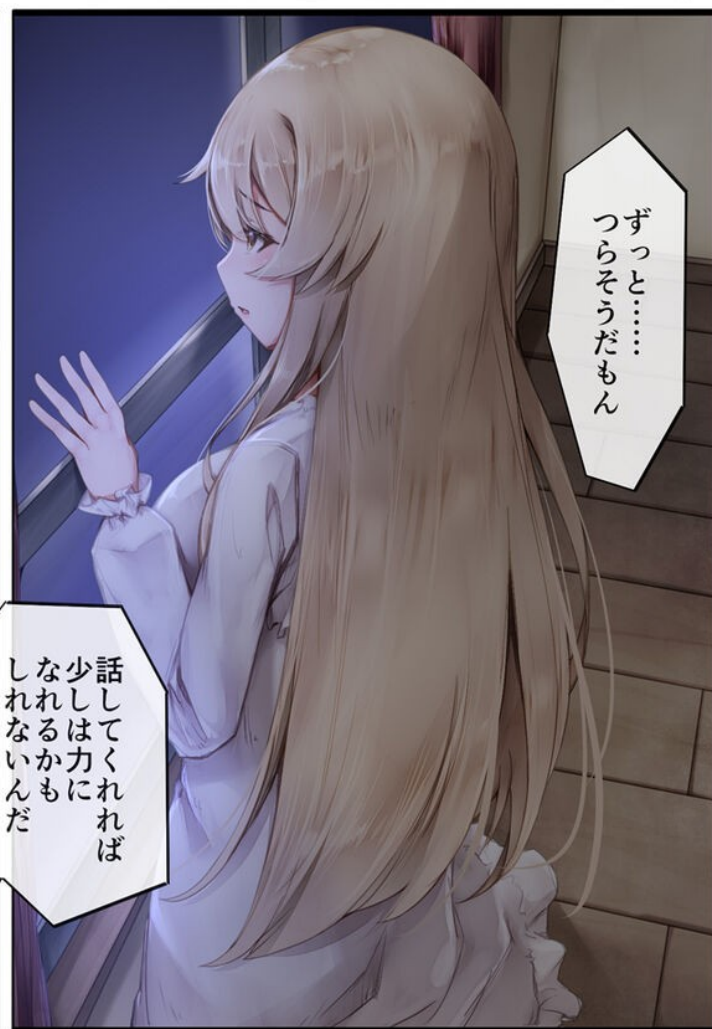
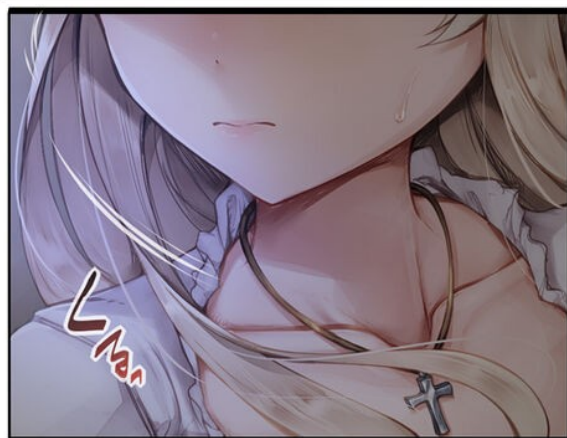
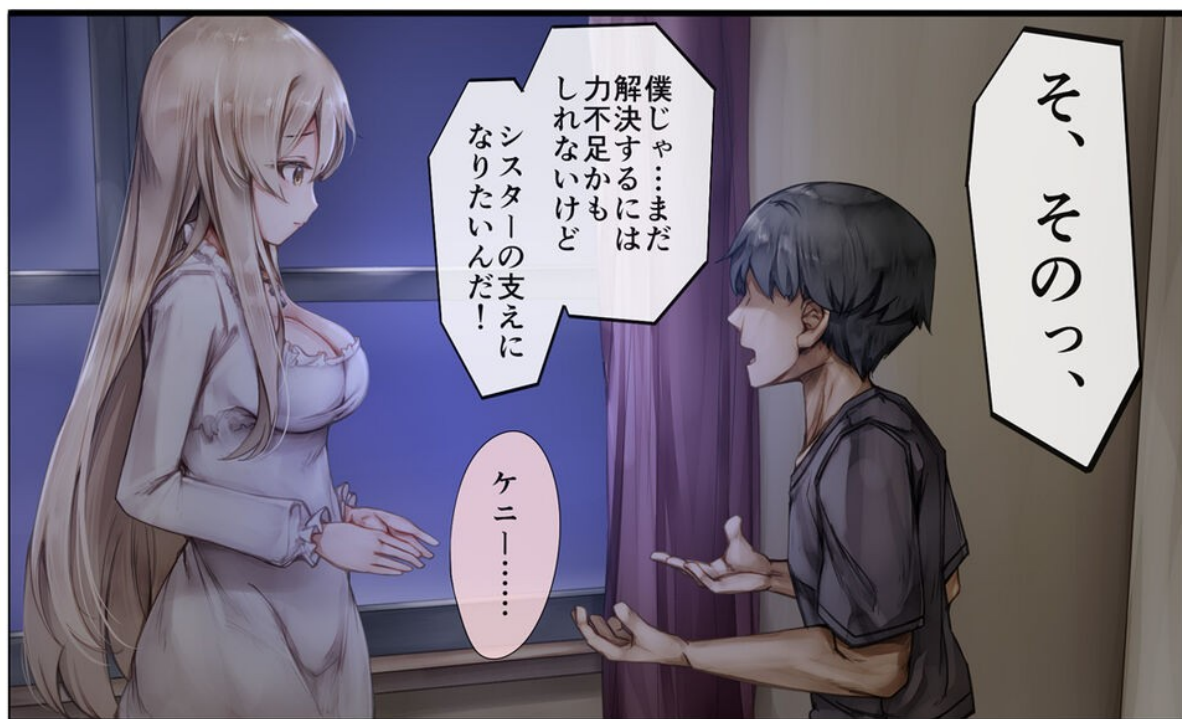
……

手、
汚れちゃったな

洗わなきゃ……

はあ







ほら
行くよー!



おねえちゃんに
まかせて!

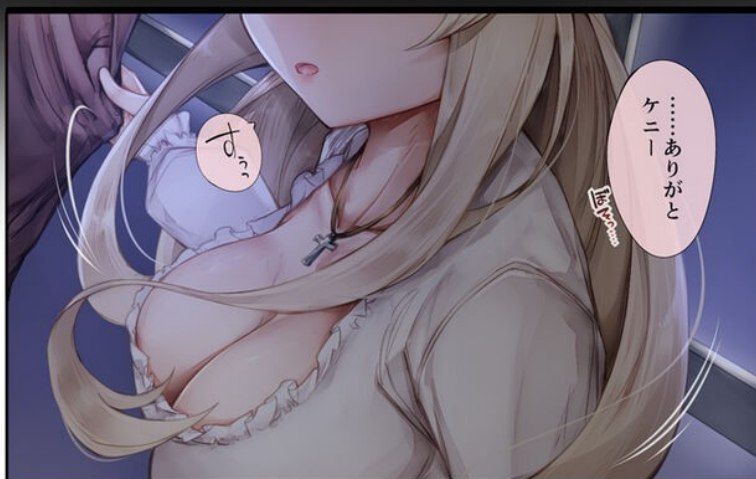
ねっ!

大丈夫!

お、おねえちゃん……っ
シスターがあっちは
あぶないって
ゆってたよ……っ



ねえ、ケニー!
今日はあつちの
お山で遊ぼ!



すっ

……ありがと
ケニー



おねえちゃんには
笑顔でいて
ほしいんだ!

あの頃
みたいに!



あの頃のように
は
いられないんです

……でも

もう、

ふっ

アッ



ごめんなさい







自分で
おねだりを
してみせろ

あっ……



今日は門出だ

少し趣向を
変えてみようか



ぎゅ……

はあんっ!

ぐりゅ

あ……くうっ……



ほら、次は
どうするんだ?

んあっ……
ま、待って、
くださ……っ



め……

だめだ

く……ふうっ



あうっ!

ほら、次は?

……っ!

そ、そのままつ……
私のナカを……かきまぜて……っ

ぎゅ

クククッ……

ズッ
ズッ



口に出すと
意識しちゃう……

繋がってる
ところ……っ、
いっぱい掻き混ぜ
られて……っ

おく…奥もっ
突いてっ……
突いてくださ…っ♡



ひっ…♡

きた…っ♡奥っ♡
ごりごりっ♡
私の気持ちいいトコ…っ♡

あーっ♡♡

あああーっ♡



そ、そのままっ♡

奥にっ♡びゅーっ♡して
してくださいっ……♡

あーっ♡♡

あーっ♡♡



はあっ……
はあっ……

なかなか
乱れっぷりだったぞ

んっ……

ご主人様に
満足いただけ

嬉しく思います……

クククッ……

私が私じゃ
なかったみたい……

男の人のモノを
自分でおねだり
なんかして……



……は、はい
仰せのままに……♥

ん…ふっ

ご主人様のモノ…
おつきい……

さっきまでこれが
私のナカに……♥

……!

い、いけない……
私なに考えてるの…

は

は

今はこのお勤めに
集中しなきゃ







息...苦しい...っ

ん...んんっ!

苦しいのに...っ♥



ふ...う...うっ!



ん...っ...

信仰心なんて
上書きしてやるからな

毎日お前を抱いて、
何も考えられなくなるまで
快楽に染めてやるッ!





くる……っ

ご主人様の……



あ……くっ……

そんなに
欲しかったか？
今日はいつになく
積極的だな

そ、そういう
わけでは……
ふ……あああっ！



私のナカ……
かき分けて……っ♡

……ッああっ！♡





近々お前を
屋敷に招き入れる

……?!

父上は当時、
エレノアより家柄を
選んだのを後悔しててな

でも俺は違う

お前を
妻として
迎える

初めて会った時から
そう決めていた



はあ、

はあ、

とても真剣な
顔してた……



もうお前は
俺のものだからな

手元に
置いておくのは
当然だろう？

……!

いつも私を嘲笑ったり
貶してばかりなのに……



ふんっ！
ふんっ！
ふんっ！

だめ……

こんなの……ただの
気紛れかも
しれないのに……

私が手に入ったら
すぐに捨ててしまう
かもしれないのに……

強引に
リードされて……♡

喜んじゃってるっ♡

私のお腹が
赤ちゃん欲しいって♡

♡
ウズウズ
しちやってる……っ♡

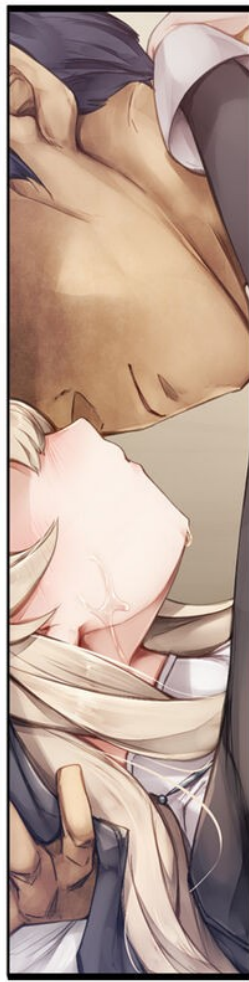
カペラ！
しっかり受け取れっ！

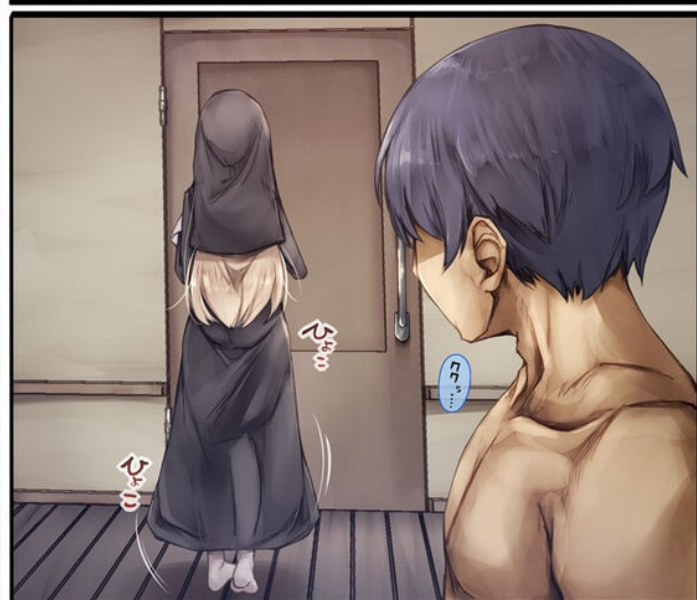
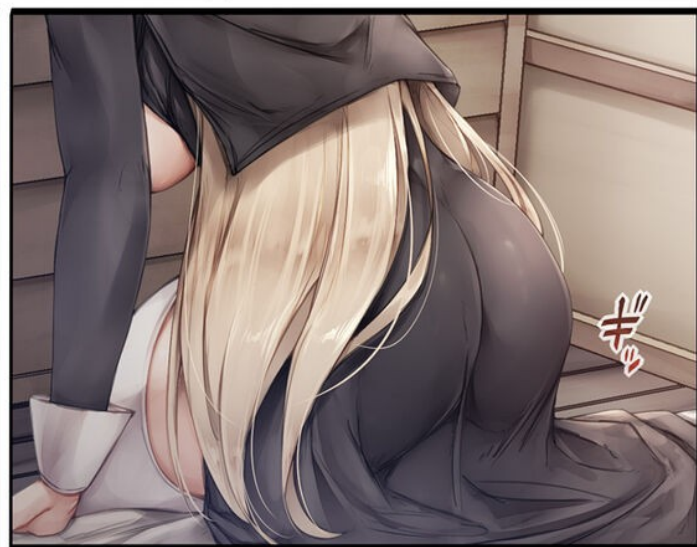
ご主人様っ…♡♡

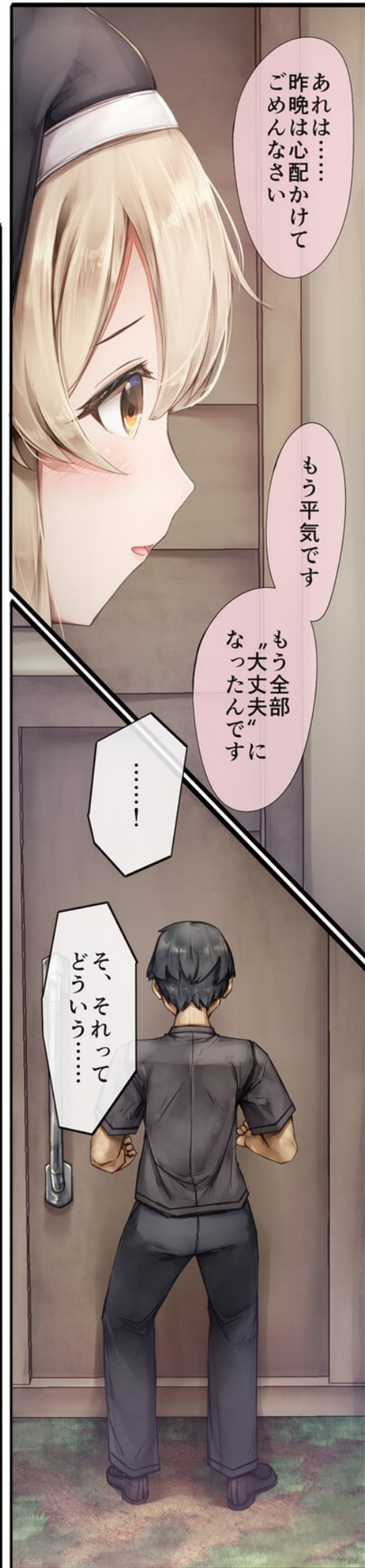
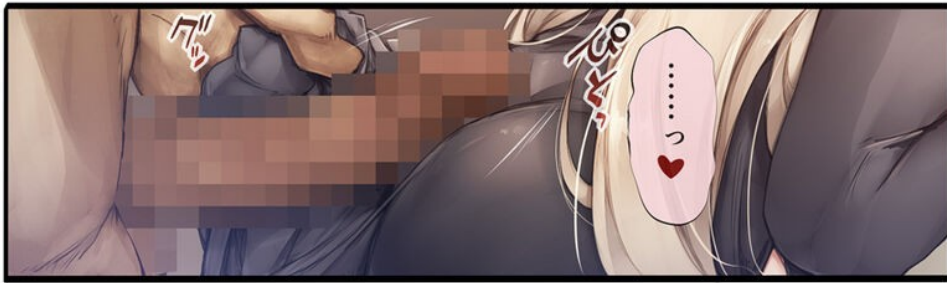
ごしゅじんさまあつ……っ

[illegible]

はーん









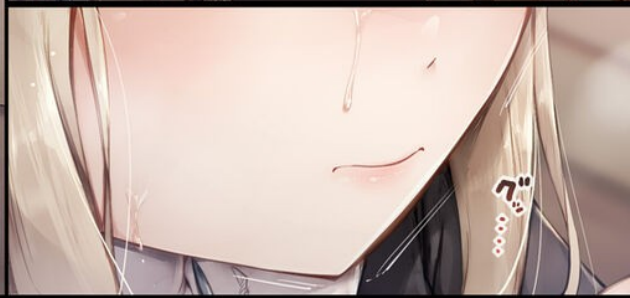


もうしばらくしたら
戻りますから……

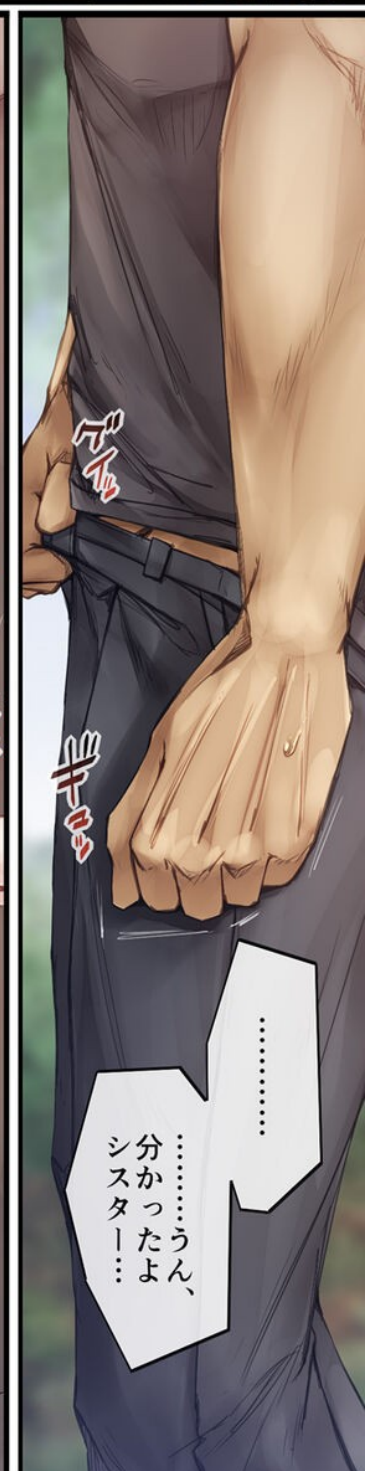
それまで
あの子たちのこと
お願いできますか？



……はあっ
はあっ♡♡



ありがとう
ございます
ケニー



……うん、
分かったよ、
シスター……









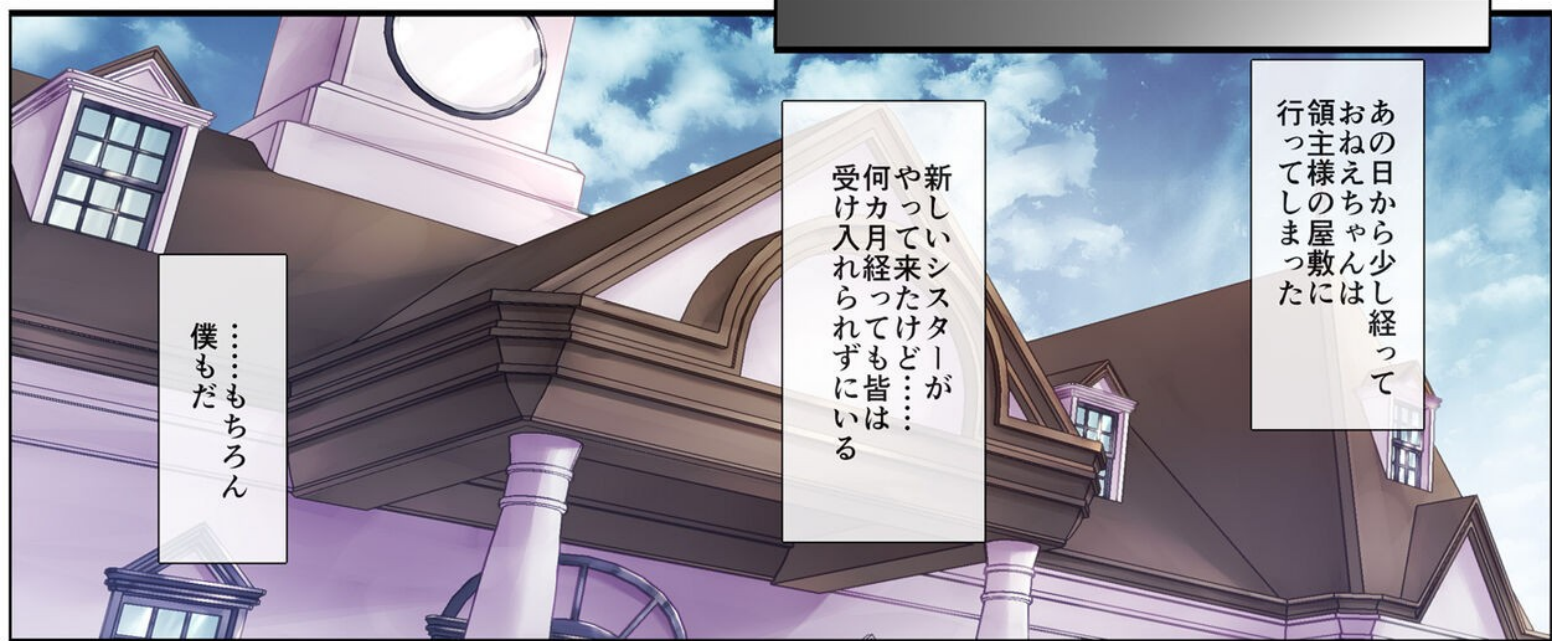


俺の子を
授かるまで

いや

授かったとしても
毎日抱いてやるからな

……はいっ♡



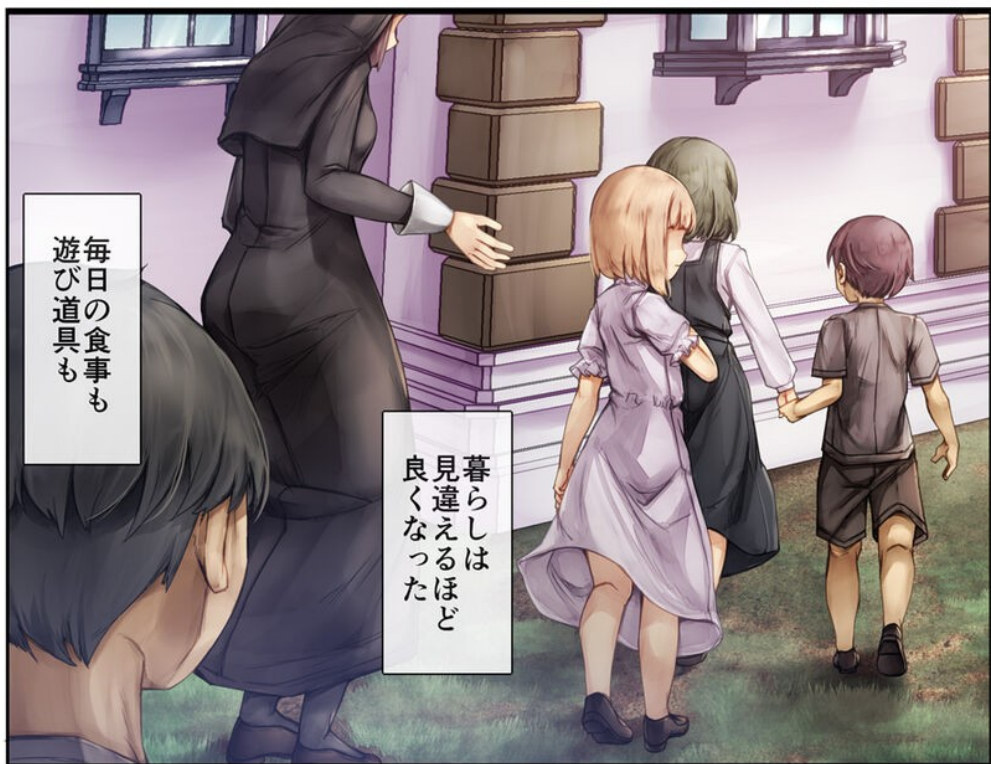
あの日から少し経って
おねえちゃんはお
領主様の屋敷に
行ってしまった

新しいシスターが
やって来たけど……
何カ月経っても皆は
受け入れられずにいる

……もちろん
僕もだ



新しい孤児院に
移り住む話も
あるくらいだ



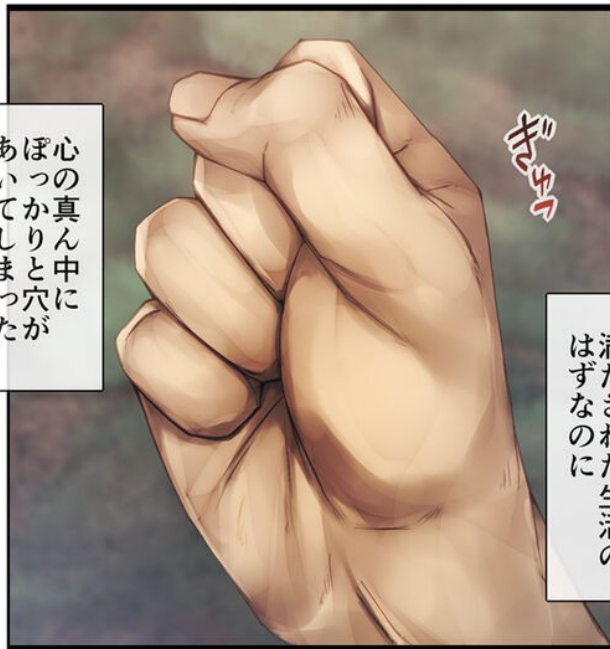
毎日の食事も
遊び道具も

暮らした
見違えるほど
良くなった



いま元気に
してるかなあ……

心の真ん中に
ぽっかりと穴が
あいてしまった
みたいだ



ぎゅっ

本来であれば
満たされた生活の
はずなのに

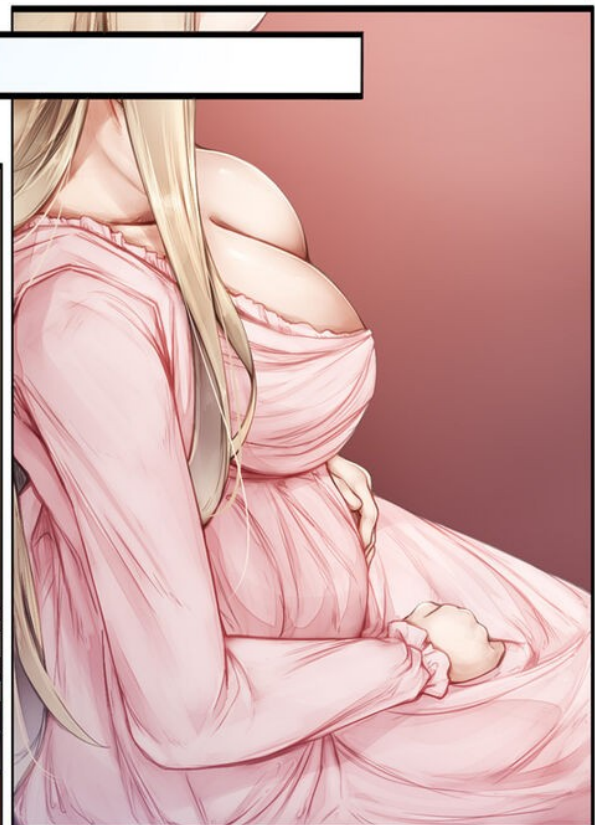
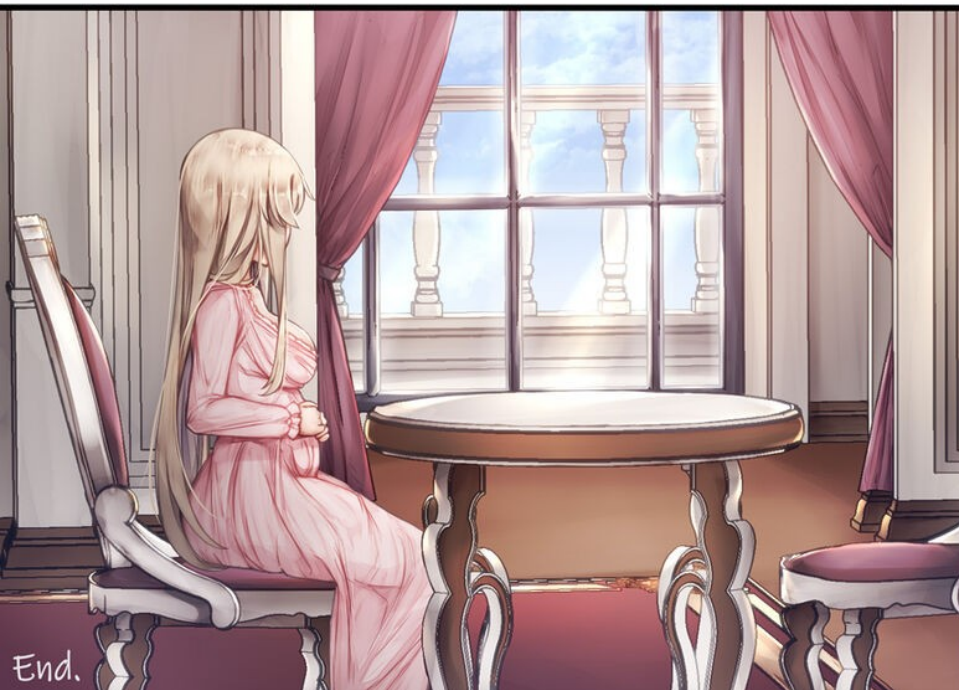


孤児の
僕らにとって



会いたいよ……

おねえちゃん……



End.